

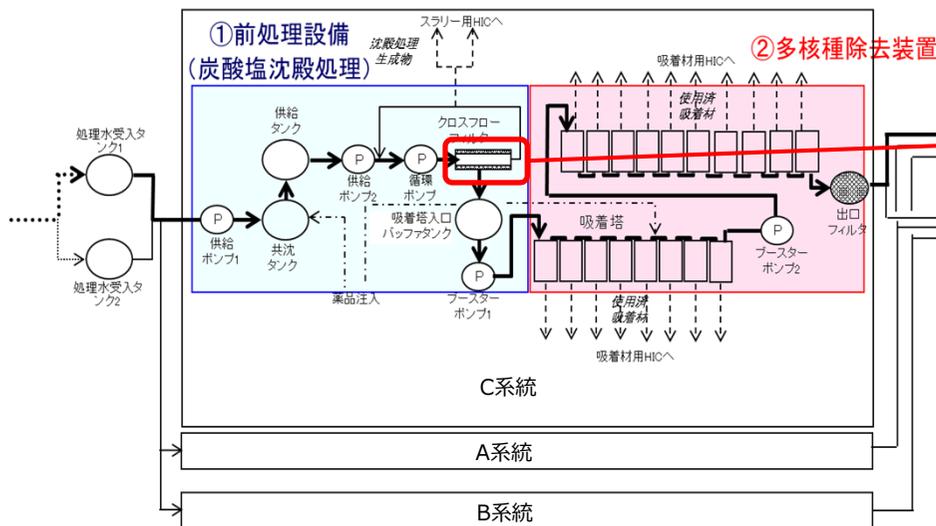
福島第一原子力発電所 増設多核種除去設備（C）における 「クロスフローフィルタスキッド1漏えい」 警報発生について

< 参 考 資 料 >
2019年7月8日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

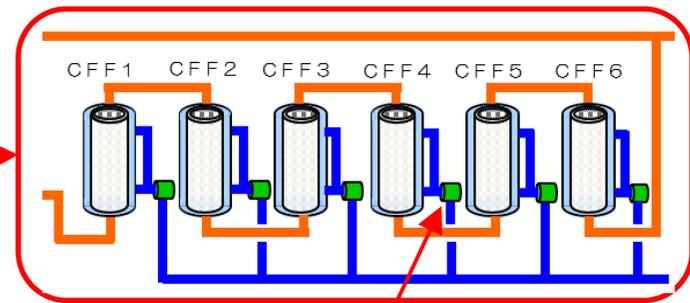
【概要】

- 7月5日午後11時54分、増設多核種除去設備（C）において、漏えい検知器が動作したことを示す警報「クロスフローフィルタスキッド1漏えい」が発生しました。
- その後、当社社員が現場を確認したところ、当該設備の検出器が設置されている側溝（ため升）、ならびに、クロスフローフィルタ4のバックパルスポート（以下「BPP」）下部床面に水が漏えいしていることを確認しました。
- 7月6日午前0時37分、漏えいが確認された増設多核種除去設備（C）の運転を停止したことにより、漏えいは停止しました。
- 漏えいした水は堰内に留まっており、外部への影響がないことを確認しています。
- 漏えいした原因は、当該BPP周辺に水滴が確認されていること、ならびに当該BPPを7月4日に修理・復旧させた直後に当該トラブルが発生したことから、当該BPPの影響と推定していますが、今後原因調査を行い適切に対策を講じてまいります。

【系統図】



【クロスフローフィルター拡大図】



【漏えい範囲】

側溝：約10cm×2m×深さ2cm
BPP下部床面：約2m×3m×深さ1mm

【漏えい量】

約10 L（2箇所合計）

漏えい推定箇所